|  |
| --- |
| ２０２０年１月　　　　　　関西総合調査業協会会報　　　　　０４０号 |

***関調協会報***　　　　　　　　　一般社団法人**関西総合調査業協会**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　大阪市北区西天満１-１０-１６

Tel 06-6313-4567　fax 06-6313-4566

**倫理綱領**

**一、会員は、調査業の社会的使命を自覚し、誠実な職務遂行によって社会に貢献すること。**

**二、会員は、全ての業務において法を順守し、社会常識を逸脱するような行為をしないこと。**

三、会員は、契約を信義に基づく誓約とみなし、矜持をもって調査に当たること。

**四、会員は、人格を磨き、能力を高め、顧客満足の実を挙げるよう努めること。**

**五、会員は、人びとの名誉、権利を尊重し、部落差別調査の廃絶に努めること。**

**六、会員は、業務上知り得た情報並びに機密の秘匿、保持に努めること。**

**七、会員は、相互に協調し、連帯感有る活動を通じて業界の発展に努めること。**

**第2８回理事会（**令和元年6月21日）

議　案

1. 総会について

審議事項

・平成30年度決算及び令和元年度予算案の審議

平成30年度の事業報告及び収支決算について理事会に諮ったところ、理事全員の賛成により異議無く承認された。

引き続き、令和元年度事業計画及び収支予算案を理事会に諮ったところ、理事全員の賛成により異議無く承認された。

・理事役員の改選について

会長は、今期、理事役員の任期満了により改選となる旨を説明し、新規に理事役員の候補者をつのったが、特に候補者は無く、現行の理事役員を候補者として推薦することにした。

1. その他理事提議事項について

会長は、令和元年5月14日全国調査業協同組合、同年6月6日NPO法人全国調査業協会連合会の総会の模様を報告し、合わせて業界の近況についての意見交換を行った。

特段の決議事項は無かった。

**第29回理事会**（令和元年７月16日）

審議事項

１、入会審査について

　　株式会社JapanPI（ジャパンピーアイ）から入会申し込みがあり、審議した結果、異議無く令和元年8月1日の入会を承認した。

**第30回理事会**（令和元年12月23日）

審議事項

１、会報発行について

関調協会報の発行について協議した結果、令和2年1月末まで　に会報誌の発行を決定。理事・役員は新春放談としての投稿を了承した。

２、業会団体との取り組みについて

当協会の所属する全国団体、NPO法人全国調査業協会連合会の活動についての概要報告が会長よりあり、他団体との協調的な取り組みについて協議された。

結果、全国団体の動きを側面から応援する姿勢で臨む事とした。

***事務局便り***

**・新入会員紹介**

　　会社名　株式会社JapanPI（ジャパンピーアイ）大阪支店

　　所在地　大阪市西区南堀江4-20-9-204　本社、東京

　　代表取締役　小山　悟郎

　　主たる業務　海外調査、一般大衆調査

　　電話　　大阪　06-7177-6855　東京　03-4496-4663

**・平成３０年中における探偵業の概況**

１ 探偵業の届出状況

・平成３０年末　/　届出業者数、5,852業者（前年比増114業者）

・業法の法律違反の検挙状況の推移（Ｈ28年～30年）

　　　　　　　　　　　　　平成28年　　　平成29年　　平成30年

　無届け営業　　　　　　　　　　3　　　　　　　　0　　　　　　2

重要事項説明書虚偽等　　　　　0　　　　　　　　0　　　　　　0

従業者名簿不整備・虚偽記載　　0　　　　　　　　0　　　　　　0

指示処分違反　　　　　　　　　0　　　　　　　　0　　 　　　 0　その他　　　　　　　　　 　　 1　　　　 　　 5　　 2

業者に対する行政処分状況

　　　平成30年中の行政処分は、営業廃止命令が０件（前年度比　－1件）

　　　営業停止命令が１件（前年比　０件）、指示が３9件（前年比 －2件）

　　業者に対する行政処分状況（指示）の内訳

　　　　　　　　　　　　平成28年　　　平成29年　　平成30年

変更届出書等虚偽　　　　　　14　　　　　　　7　　　　　　8

　　実施原則違反　　　　　　　　 6 3 4

書面受理違反　　　　　　　　 7 4 3

書面交付違反　　　　　　　　12　　　　　　　10　　　　　　8

　　違法行為認知業務　　　　　　　0　　　　　　　0　　　　　　0

　　探偵業以外委託　　　　　　　　0　　　　　　　0　　　　　　0

　　守秘義務違反　　　　　　　　　2　　　　　　　0　　　　　　1

　　資料不正等利用　　　　　　　　0　　　　　　　0　　　　　　1

　　教育義務違反　　　　　　　　　0　　　　　　　0　　　　　　0

　　名簿不整備・虚偽　　　　　　　7　　　　　　　9　　　　　　7

　　証明書掲示違反　　　　　　　　2　　　　　　　6　　　　　　2

　　他法令違反　　　　　　　　　　3　　　　　　　2　　　　　　5

　　指示処分違反　　　　　　　　　0　　　　　　　0　　　　　　0



**新　春　放　談**

**「業界団体のあり方」**

**会長　松谷　廣信**

　新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

　令和の元号に相応しい、小春日和をおもわせる爽やかな正月でしたが、会員の皆様は如何でしたでしょうか・・。

　昨年は急激な火災保険料のアップがあり、今更ながらに環境問題がもたらす天地の怒りにおそれを覚えた一年でしたが、今年は令和の幕開けのような和やかな年になる事を祈らずにはいられません。

ただ私たちはごく平凡な小市民ですが、祈る事しかできない力弱い存在ではありません。一人ひとりが力を合わせれば、世界を動かし、地球規模で環境問題に取り組む方向に舵を切ることも決して不可能な事ではありません。「私などが一人・・」などと言わず、反省の鞭を手にして、ムー大陸やアトランティス大陸の悲劇を二度と繰り返さない為にも、皆で力を合わせ尽力しようではありませんか。

　また世界経済に目を転じれば、経済市況を図る材料の一つである株価は、実体経済を反映することなく、トランプ大統領のつぶやき一つで大きく動く傾向にあり、大荒れの幕開けとなりました。この傾向は今年１１月までは続くかと思われます。

　一方我が調査業界はどうでしょうか？個人的には特に驚くほどの大きな変化はなく、比較的平穏裡に推移して来たように思っておりますが、会員皆様は如何がお感じでしょうか。ただ高止まりの平穏裡であれば良いのですが、市況は全く逆で、低迷した状態が継続維持されているのが実態の様です。その市況を反映してか、協会に寄せられる苦情や相談も激減しております。また、新年早々に大阪府警の担当官にご挨拶にお伺いしましたが、その席でも、「市民からの苦情や相談は減少傾向にある」との事でした。表面的にみれば良い傾向にあると言えますが、裏を返せば苦情や相談が寄せられる程、調査依頼が無く、減少傾向にあるとも取れるもので、一概に喜んでばかりおれる状況ではありません。

同様に私ども業界団体も、全国レベルで組織率は減少傾向にあり、２０年ほど前のピーク時からすれば半減以下に低迷しております。業界の纏まりの悪さは今に始まった事では無く、ここ数十年離合集散を繰り返し、今に至っている訳ですが、ただこうした中にあって昨年は将来を見据えた少し明るい動きもありました。

具体的には昨年９月１３日、私共が団体加盟する全国調査業協会連合会の教育研修会が北海道の札幌で開催されましたが、同じ業界団体である日本調査業協会と東京都調査業協会が教育研修会の協力団体として名を連ねて頂きました。また、翌週の９月１８日に開催された東京都調査業協会の教育研修会（東京で開催）には、全国調査業協会連合会が協力団体として名を連ねました。

こうした動きは業界の過去の歴史には無かったことであります。出来る事であればこれを良き機会ととらえ、将来を見据えた業界団体の動きの足掛かりになればと考えているところであります。

何れにしましても皆が力を合わせ日本に於ける調査業のあり方を真剣に考えていかなければ将来は決して明るいものでありません。社会的地位の向上のためにも一定の規制は仕方ありませんが、安寧な社会を目指すには、無くては成らないこの仕事が、規制のみで縛られ、何らの権利、権限もない今の状況では、真にお客様（依頼者）に満足して頂ける仕事をするには、塀の上を歩かなければならないくらいの状況にあります。特に近年の人権、プライバシー、個人情報保護の動きからすると、増々その傾向は強まっており、調査業界としては看過しがたい状況にあると言えます。

真の人権、プライバシー保護、個人情報保護は、単に知られなければ良いというものではありません。本当の安心、安寧な社会を目指すには、お互いがお互いを知り、情報を共有したうえで、次の手を打つのが本当のあり方では無いでしょうか。今重宝されているプライバシーや個人情報保護は、都合の悪いことは全て、プライバシーや個人情報保護の名のもとにひた隠しに隠すという、利己的な個人主義の手助けをしているようにしか思えません。戸籍や住民票問題にしても同様で、もっともっと議論を深め、公開原則の立場からも真剣に検討して行く必要があるように思います。

そんな活動の為にも調査業団体のあり方が問われる時代に入っているのではないでしょうか・・・。

今年一年が皆様にとりまして明るい年になりますよう祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。

**「カオスな世の中と探偵と」**

**副会長　横田　正人**

　新年あけましておめでとうございます。  
　皆様おすこやかに新春をお迎えのことと存じます。昨年は何かとお世話になり、大変ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。  
　さてさて、あっという間にすったもんだのあった「ＴＯＫＹＯ２０２０」の年を迎えることになりました。その影響もあるのか、数年前から外国人観光客が想像を絶するような勢いで、今も押し寄せているような今日この頃です。  
　私たち探偵業界には以前からあった近隣問題に係る調査。以前は、近隣から「投石される」「植木を切られる」「物を壊される」「上階の物音がうるさい」なんて言うご相談が多かったのですが、ここ数年前からは「夜中にゴロゴロいわせて民家に入る外国人がいるが、何をしている家なのか？」とか「外国語を話す、露出度の高い服着たアジア人がたむろしているが、あれは何か？」とか言うようなご相談がちらほらと入るようになりました。今となって思えば、どこにでもあるような、いわゆる民泊問題の走りですが、初めて聞いたときは、何かよろしくないグローバルな黒い波が押し寄せているのかな・・、と思ったものです。  
　また、昨今は、これらの外国人観光客が、飲食店や観光地で「○○ＰＡＹ」などのキャッシュレス決済アプリを使って機械にかざしたり、写真を撮ったり、コチョコチョと操作しているスマートフォン（以下「スマホ」）を、私も数年前から使っていますが、知らない間にその技術やサービスが、私たちの世代の頭では追い付けないようなハイスピードで日々進化していて、海外旅行も自分で外国のホテルや民家を改造した民泊施設を「トリバゴ」なんかのアプリでサクッと予約して、飛行機（今の人は「エア」というらしいですが）もこれまたアプリでポンポン予約して、スマホでサイトの口コミを参考に観光地、グルメ、体験ツアーなんかも閲覧予約する。さらに驚くのは、海外の家を出て、帰るまで現金を使わないなんて……。  
　そんな時代が物凄い勢いで襲来しているのですね、いつの間にか。　たまに、テレビに出た若い人が「スマホ命なんで」なんて以前言っていて、相当な違和感を感じたものですが、今となっては私のようなおじさんでもそう思う、まさにそんな時代が来ています。毎日のようにスマホでネット情報を収集し、ゼンリン住宅地図を見て、依頼者との連絡もスマホ、撮影した写真の一部も速報の報告用にカメラやビデオからスマホに取り込んでスタッフや依頼者と共有、現場で集めた情報やメモもスマホのメモアプリ、スタッフとの指示書のやり取り、スケジュールの共有、現場での複数同時通信、日々のレポート、経費精算、振り込み、出張の旅程や予約、これらの他にもありとあらゆる面倒が手のひらのスマホで担われている。もしかすると私がいなくなっても、代わりのスタッフが私のスマホさえ引き継げば、後継者問題はすんな  
り解決するかもしれない。  
　そんな私の姿を見て、まだそこまでスマホに依存していない友人は、私がデジタルの世界に毒されていると感じているらしいが、そいつは電話こそガラケーを使っているが、早くから電子タバコを吸って、新しい端末が出るたびに買って試して、デジタルの世界に毒されている。  
　これらいわゆるビッグデータが、ＡＩによって分析されて、個々の人に最適な社会生活を送れるようにいざなってくれる。そう思って安心していると、今度はセキュリティー問題が降りかかってくる。サイバー攻撃、ウイルス、乗っ取り、なりすまし等々イタチごっこが今もどこかで、これまたハイスピードで日々進化を遂げていて、新しいセキュリティプログラムがリリースされていく。  
　では、インターネットを経由しないオフラインなら安心なのかというと、先日も某社スタッフによる廃棄ハードディスクの転売による情報漏洩があったが、このようなことが明るみになると信頼性は損なわれ、こちらも安心を手にすることが混沌とした状況にある。  
　結局は、世の中が便利になり過ぎると、私もそうですが、人は自分で考えるということが少なくなって、「便利ならいいか」ということで、知らぬ間にどっぷりとぬるま湯に浸かってしまうということが起こり、たちまち不便な状況に戻れなくなってしまうのかな、という思いもあって、私自身は少しだけアナログ人間の部分も残しつつ、自己管理をしながら便利なデジタルの世界に毒されようと思います。  
　この「自分の頭で考える」というのが、今の時代はかなり大事なことではないのかと私自身は今も強く思って日々暮らしています。関西人がよく使うフレーズで「知らんけど」という締めくくりの言葉がありますが、非常に便利な言葉で、例えば「○○に車で行こうと思うけど、駐車場あるやろか？」と周りの人に聞いたときに、「あるんちゃう。知らんけど」というもので、面倒くさいときとか、詳しく知らない場合に使うと、話がそこで終わって非常に便利な言葉です。  
　ところが、これを鵜呑みにして行動すると、「違うがな」という結果になってしまうこともしばしばで、改めて自分で調べ直したり、自分で考えたりするということが大事だと再認識させられることがあります。要は手間を惜しまず、「自分の頭で考える」という昔からあったルーティンを大事にすることが、今の時代の早い流れに流されない、また取り残されないことにつながるのかなと、自分自身では思っています。自分を見失わないためにも。  
　そんなこんなで複雑な時代を生きている私たちですが、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

**「調査業のあり方」**

**専務理事　竜田充子**

　明けましておめでとうございます。

　昨年は業界にとって大きな動きのなかった年でした。そして、問題となる事件や苦情も例年に比べ少なかったことは何よりです。

　しかし、様々な規制が強まり、「八業種」ではない調査業にとって、調査の前提情報すら入手できない事態が続いています。また、個人情報保護の意識が高まる中、調査それ自体が年々しづらくなってきているのも事実です。

たしかに本人の同意なしに個人のプライバシーをむやみに他者に開示されない権利は重要ですし、また個人情報をきちっと管理する必要があるのも間違いありません。

しかし、それが行き過ぎると、社会のチェック機能が働かず、不正や違法行為が横行し、それを予防することができなくなります。

調査業には、事前にトラブルを予防する役割があり、社会的に非常に有用な業種です。その調査業が、不正や不法行為、トラブルの防止のための個人情報すら触れることができないのは、却って社会的な損失だと私は考えています。

にもかかわらず、調査業者が調査に必要な情報を入手することが困難になってきているのは、大半の調査業者が健全な調査業を営んでいる中、利益のために悪質な「調査業」を名乗る者がおり、そういった業者の存在によって、調査業者に個人情報に触れさせて大丈夫なのかと疑念を抱かれたことも一因していることは想像に難くありません。

だからこそ、調査業を正当な調査の目的であれば個人情報に触れられる地位に置くためには、調査業自身の社会より信頼を得られる自浄努力が必要です。同時に、多くの調査業者が真面目に調査業の社会的役割を果たそうと業務に取り組んでいること、調査業が社会的に有益な仕事であることの理解を広めるための継続的な発信を、調査業者が一丸となって行っていくことが必要となります。

ところが、「調査業が一丸となって」といった場合、これまで調査業界の長い歴史の中で常に目指されてたにもかかわらず、なかなか実現できないできました。理念が違えているにもかかわらず、むやみにひとつになろうとして、そのたびに瓦解してきた訳で、それはある意味当然と言えましょう。

したがって、遠回りのようであっても、この調査業界が何を目指すのか、どういった業界を作ってきたいのかという理念を丁寧に議論し、一致した上で取り組んでいかなければ、また同じ繰り返しになることでしょう。

ひとつになりにくい困難さ、特殊性があるのは重々承知の上で、理念が一致した業者たちが、健全な調査業者であり続けることの自浄努力や調査業が有益な業種であるということの継続的な発信を行っていかなければ、調査業界が発展できる業種としては成長できないのではないかと考えます。

　令和2年が少しでもそうした歩みを推し進められる年になることを祈念いたしております。

**理事　　夏原佳代**

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

本年も引き続きご愛顧賜りますようよろしくお願いいたします。

昨年も、ここ数年と同様に、さまざまな地域において異常気象や自然災害が発生した年でした。  
　被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。  
　また多くの不正行為、パワハラ、セクハラ、虐待などが世間を賑わし、その多くは一般人からの投稿や動画、告発などから世間に知らしめられるようになりました。

ハリウッドから始まったとするMeToo運動は、著名人からのセクハラや虐待を見てみぬふりをするのは終わりにするタイムズアップ運動と共に特権階級や権力には絶対に勝てないと思われていましたが、その勇気ある発言がハリウッドの映画界を揺るがすほどになり、その波動は世界中の被害者を救済しています。

しかしながら過去の行いをどうして立証できるのか、そこに偽り被害妄想などは起きていないのか、人を貶めるための虚像ではないのか。世に訴えるだけの問題ではなく、懲罰を問うならば事実としての被害の立証する難しさもあります。なぜなら過ちを犯した者は現在では一生消えないデジタルタトゥーとして残された人生を迎えます。  
　まさに時代が正しくない人を追及したい欲求がどんどん高まり、顔の見せない人たちの攻撃は虚実入り混じりながらも捨て身の覚悟を持って闘う人たちが現れたのかもしれません。そんな時代をふまえて調査業としての新しい役割や調査の手法も推移していくと思います。  
　またトラブルの経験のない個人や企業の方は、調査をすることに対して未だに多くの偏見があるようですが、経験した人にしかわからない計り知れない不安を払拭したり、危機管理のために調査を行うことは新たな方向性を見出すことになります。  
　自然災害もそうですが災いはいきなりやってくるので、危険な箇所はないのか準備ありきで、始まりは微風であってもそれが徐々に強風になって取り返しがつかなくなっていきます。  
「生き残るのは最も強い者ではなく、変化出来る者」その言葉は命ある者全てに例えられます。

時代のニーズに合わせた変化とこれまで長年培った調査力で変わらぬ調査業を邁進したいと思います。

